

目的 Kohlberg の手法を用いて小学生の道徳判断を測定することができるかどうか、またそれが可能であるならば、どのような成熟の様相を示すかを明らかにすることである。

方法 小学生、女児、1年生3年5年(各7名)に30~40分の個人面接調査を行った。Kohlberg の3例話を提示し、道徳判断とその根拠を求めた。その根拠に基づいて判断の成熟度を3名で評定した。

結果 (1)特に1年生の場合には、すぐに例話を理解できない場合もあったが、追加説明をすれば可能であり、従来の研究では対象とならない1年生も含めて小学生にこの手法を用いることができる。(2)道徳判断の総得点の平均値を学年別に示すと、1年生で179.0、3年生で235.4、5年生で272.8であった。1年と3年、1年と5年の差は有意($P<.01$)であり、3年と5年は有意な差がなかったが、全体としてこの結果から学年の上昇に伴って道徳判断得点が増加することになった。この傾向はA・B・Dの3例話を通じて一貫してみられる。

	1年	3年	5年
例話 A	167.6	210.7	284.7
例話 B	185.0	264.7	254.1
例話 D	184.5	280.9	279.7
総平均	179.0	235.4	272.8
SD	77.2	89.6	25.3
Range	133.4~209.5	199.9~269.3	246.6~288.4

(3)学年ごとに個人差をみると、1年生でSD=77.2(133.4~209.5)、3年生でSD=89.6(199.9~269.3)、5年生でSD=25.3(246.6~288.4)である。従って個人差は3年から5年にかけて急激に小さくなる傾向がみられた。(4)1年生においてのみ月令と判断の成熟度に相関がある($r=.75$)。また3年と5年について判断の成熟度とIQの関連を検討したところ、5年生においては相関があった($r=.68$)。